

# 営農だより りんご



令和3年5月17日 発行  
弘前地区営農係

管内のふじの生態は、開花で平年より6日程度早い5月3日となり、落花で平年より6日早い5月12日となっています。

弘前地区管内では、一部園地で凍霜害がみられる為、ガク立ちがはっきりしてから摘果作業を行きましょう。

黒星病の重点防除時期となる為、10日間の散布間隔の徹底で黒星病対策に努めましょう。

## ●管内のふじの生態●

調査地点	開花日	満開日	落花日
薬師堂	5/2	5/7	5/10
狼森	5/3	5/9	5/12
小沢	5/4	5/10	5/13
平年	5/9	5/13	5/18

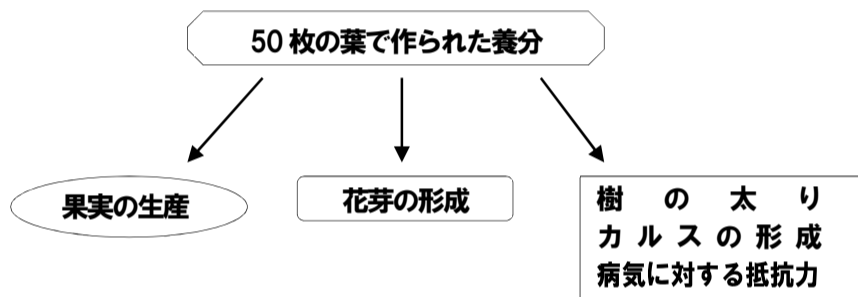
開花日: 1~2花開花したとき。  
満開日: 頂芽花の70~80%が開花したとき  
落花日: 頂芽花の70~80%が落花したとき

## ●摘果作業●

☆一つ成り摘果

一つ成り摘果は、果実形質の良しあしが判然としない「落花10~15日後頃」までとし、判別が可能になった時点で、仕上げ摘果へ切り替えましょう。特に、生育期間の短いつがるや、後から強めに行っても肥大のしにくい傾向のある黄色品種については、『早く強い』摘果が重要ですので、計画的に進めましょう。

りんご1果あたり50枚の葉が必要とされています。



◇作業手順◇

一つ成り摘果~仕上げ摘果	新梢停止期まで(7月上旬まで)
見直し摘果(無袋)	新梢停止期以降(7月中旬~お盆の頃まで)

◇適正着果量の目安◇

つがる・ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ・王林	4頂芽に1果

- ・ツルが《長い・太い・曲がりがないもの》を残すようにしましょう。
- ・充実した花芽(花が多い花そう)に成らせるようにしましょう。

※一部園地では、4月中旬からの断続的な低温や霜の影響と思われる、被害が確認されています。被害が確認される園地では、ガク立ちがはっきりしてから摘果を行うようにしましょう。

## ●摘果剤●

☆ふじには摘果剤を併用しましょう。

品種構成の半分以上を占めるふじには、薬剤摘果を併用し、作業効率アップにつなげましょう。散布が遅れた場合でも、発現は遅れるものの摘果し易くなるなどの効果があります。

品種	散布時期	薬剤
ふじ	中心果の横径10mm前後(満開後2週間頃)	マイクロデナポン1,200倍 350ℓ/10a以上
ジョナゴールド	中心果の横径15mm~16mm	

## ●薬剤散布●

黒星病の重要防除時期となります。黒星病の子のう胞子も気温の低い降雨時には活発に飛散しております。

散布間隔を10日以内で散布を行きましょう。

回数	散布量	散布時期	対象病害虫	基準薬剤	1000L当りの薬量	防除上の注意
4	400L/10a	ふじの落花10日後頃	黒星病 斑点落葉病 ミダレカクモンハマキ クワコナカイガラムシ	1 ジマンダイセン 600倍 2 スプラサイド 1500倍 3 ネオミクス 250倍	1.67kg 667g 4kg	黒星病、防除の重要時期ですので、10日以内で散布を行きましょう。
5	450L/10a	ふじの落花20日後頃	黒星病・黒点病 斑点落葉病 クワコナカイガラムシ	1 デラン 1500倍 2 サイアノックス 1000倍 3 ネオミクス 250倍	667ml 1kg 4kg	黒星病対策として、散布予定日に降雨が予想される場合は、降雨前に散布しましょう。
6	500L/10a	ふじの落花30日後頃	黒星病・斑点落葉病 すす病・黒点病 モモシンクイガ アブラムシ類	1 ジマンダイセン 600倍 2 オリオン 1000倍 3 ネオミクス 250倍	1.67kg 1kg 4kg	葉、1枚出するのに約2.5~3日かかります。降雨前散布もあまり日数を開けずに散布しましょう。